建設通信新聞

日測協

情報共有し議論
イノベーション大会

日本測量協会（清水英範会長）が主催する「測量・地理空間情報イノベーション大会２０２２」が15日に開幕した。オンラインでの開催となる。測量・地理空間情報に関連する技術とそれを利用した新事業の発展、人材育成や教育研修などの幅広い情報発信の場となる。２６００人以上が参加登録している。

開会に当たり、あいさつに立った清水会長は「測量・地理空間情報分野に関係する専門家が勉強し、情報共有しともに考え議論すべきという観点から講演のテーマを選んだ。防災、減災、国土強靱化、公共工事の品質確保、ｉ－Ｃｏｎｓｔｒｕｃｔｉｏｎ、建設ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）などの重要性が広く認知され、測量・地理空間情報分野への期待やニーズが高まっている。今後は何をすべきか、知識や専門性を高めるだけでなく、社会とどのように関わり、貢献していくかを真剣に考えなければいけない」と語った＝写真。

国土地理院の金澤祐勝参事官も「急速に進むＩＣＴの活用が進む中で、位置情報の活用も急速に進んでいる。デジタルツインも注目されており、サイバー空間上で分析・シミュレーションした結果を実空間にフィードバックする技術での活用が期待される。デジタルツインの基盤となるのは、工事図面や地図など測量で得られる地理空間情報だ。測量技術はさらに重要に、役割も大きくなるだろう」と述べた。

初日の15日は、「大手測量会社におけるＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の取組」をテーマにパスコ、国際航業、アジア航測、朝日航洋の４社がそれぞれの事例を紹介した。２日目の16日は、ＧＮＳＳ（衛星測位システム）に関連する技術のほか、ドローンや３次元現況測量、ＡＲ（拡張現実）の最新技術の動向について講演する。

大会は、スペシャリストの会とジオメトリストの会が共催。15、16日はリアル配信プログラムを用意するほか、30日まで７つの講演をオンデマンド配信している。22日からは、リアルタイム配信した講演３題の編集版もオンデマンド配信する。